

2023年6月30日

博士学位審査 論文審査報告書（課程内）

大学名 早稲田大学
研究科名 大学院人間科学研究科
申請者氏名 影山 康博
学位の種類 博士（人間科学）
論文題目（和文） 医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師における2職種間の連携と退院支援実践力に関する研究
論文題目（英文） The Cooperation between Medical Social Workers and Discharge Coordination Nurses and their Practical Ability to Provide Discharge Support

公開審査会

実施年月日・時間 2023年6月2日・17:00-18:10
実施場所 早稲田大学 所沢キャンパス 100号館 第四会議室

論文審査委員

| | 所属・職位 | 氏名 | 学位（分野） | 学位取得大学 | 専門分野 |
|----|------------|--------|----------|----------|------|
| 主査 | 早稲田大学・教授 | 扇原 淳 | 博士（医学） | 順天堂大学 | 社会医学 |
| 副査 | 早稲田大学・教授 | 永島 計 | 博士（医学） | 京都府立医科大学 | 生理学 |
| 副査 | 早稲田大学・名誉教授 | 加瀬 裕子 | 博士（人間科学） | 早稲田大学 | 老年学 |
| 副査 | 千葉大学・准教授 | 石橋 みゆき | 博士（看護学） | 千葉大学 | 看護学 |

論文審査委員会は、影山康博氏による博士学位論文「医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師における2職種間の連携と退院支援実践力に関する研究」について公開審査会を開催し、以下の結論を得たので報告する。

公開審査会では、まず申請者から博士学位論文について30分間の発表があった。

1 公開審査会における質疑応答の概要

申請者の発表に引き続き、以下の質疑応答があった。

1.1 **質問：**3本の学術論文が本論文の骨子となっているが、全体を貫く研究目的を分かりやすく記述する必要がある。

回答：本研究の目的は、医療ソーシャルワーカー（以下、MSW）と退院支援看護師の2職種（以下、2職種）間の連携の強化が、2職種の退院支援実践力の向上に有用であることを検証することである。指摘の点について、論文全体の構成を含めて修正する。

- 1.2 **質問**:相互のスーパービジョンに至るまでに、段階的な連携があるのではないか。
回答:相互のスーパービジョンに至るまでの段階的な連携・発展は考えられる。
今後、スーパービジョンの体制が整っている医療機関へのインタビュー調査も計画しており、将来的な検討課題とする。
- 1.3 **質問**:スーパービジョンは同職種において成り立つのではないか。
回答:異職種間におけるスーパービジョンについて検討している研究論文もある。
MSWと退院支援看護師の2職種は、異なる専門職ではあるが、退院支援を行う職種でありスーパービジョンは成立すると考えられる。
- 1.4 **質問**:退院支援看護師は独立した職種か。
回答:独立した職種である。
- 1.5 **質問**:先行文献として検討している論文が日本国内を対象としたもののみであるが、その理由は何か。また、関連した海外論文について調べたか。
回答:退院支援はそれぞれの国の制度に基づいて行われているため、本研究では日本国内を対象とした研究に限定して検討を行った。海外については、退院支援制度をはじめ医療制度が日本と異なるため、文献検討の対象としなかった。
- 1.6 **質問**:退院支援については、平均在院日数やコストをアウトカムにした方がよいのではないか。
回答:今後、DX化やデータ連携が進むことで分析も可能と考えられるが、現状では、質問紙等でそれらの情報を取得するには医療機関側の負担もあり限界があると思われる。
- 1.7 **コメント**:本研究は、2職種が協働できた場合に、患者と病院経営に良い効果があることに着目している点で新規性がある。定量的な研究には現場感覚が重要であるが、本研究は現場感覚を非常に反映している研究である。今回は急性期医療機関に限られているため、今後は他の種類の医療機関も対象とした研究を期待する。
回答:今後の課題としたい。

2 公開審査会で出された修正要求の概要

- 2.1 博士学位論文に対して、以下の修正要求が出された。
- 2.1.1 p.18にある「進歩的」という文言は何を根拠に「進歩的」としているのか。根拠のある記述への修正を求める。
- 2.1.2 なぜコンサルテーションではなくスーパービジョンにしたのか、より詳細な加筆を求める。
- 2.1.3 退院支援看護師と比較してMSWが患者・家族の相談にのれていなかったとする本研究の結果について、職種の専門性や現場の状況を踏まえたさらなる考察を求める。
- 2.1.4 質問項目作成の手続きについて、より詳細な記述を求める。
- 2.1.5 本研究の結果が、医療現場にどのように活かせるかについて、今後の研究の発展も踏まえ、加筆を求める。

2.2 修正要求の各項目について、本論文最終版では以下の通りの修正が施され、修正要求を満たしていると判断された。

2.2.1 「進歩的」という言葉を削除して、文章全体を修正した。

2.2.2 「スーパービジョン」とした理由について、スーパービジョンはケースに責任を持つことが基本であり、コンサルテーションは第三者的であるとも考えられることを加筆した。また、異職種間のスーパービジョンを検討する先行文献も引用して論述した。

2.2.3 退院支援看護師と比較してMSWが患者・家族の相談にのれていなかったとする本研究の結果については、退院支援看護師とMSWそれぞれの専門性を踏まえた考察を加筆した。

2.2.4 調査票の開発に関わる検討の手続きを加筆した。

2.2.5 本研究は急性期医療機関の急性期病棟を担当する2職種を対象としたが、急性期病棟以外を担当する2職種を対象に研究を行い、本論文と比較検討することは、本論文の発展につながることを加筆した。

3 本論文の評価

3.1 本論文の研究目的の明確性・妥当性：本研究は、急性期医療機関のMSWと退院支援看護師を対象に、職種間で専門スキルの強みに差異があり、それぞれの強みを生かした2職種間の連携の強化が、退院支援実践力の向上に有用であることを検証した。退院支援は、地域包括ケアシステムの推進や診療報酬制度の運用点でも重要であり、本論文の目的は明確かつ妥当と判断した。

3.2 本論文の方法論（研究計画・分析方法等）の明確性・妥当性：研究で用いられている統計的手法については、手順に沿った解析がされており、また、本論文の研究目的にかなった手法であり、明確かつ妥当であると判断できる。なお、本論文における研究Ⅰ・研究Ⅱ・研究Ⅲのいずれも、早稲田大学の「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を取得し（2018-161(1)）、倫理的な配慮は十分に行われていると評価できる。

3.3 本論文の成果の明確性・妥当性：本論文の成果として、【医療的ケアの生活への融合力】では退院支援看護師の専門スキル、【保健医療福祉サービス調整力】ではMSWの専門スキルによって、それぞれの強みを生かした2職種間の連携の強化が、退院支援実践力の向上に有用と示唆された。本論文は、先行研究の結果を裏付ける量的研究であり、その成果には明確性と妥当性が十分に認められた。

3.4 本論文の独創性・新規性：本論文は、以下の点において独創的である。

3.4.1 MSWと退院支援看護師の2職種の強み・専門性や、2職種間の連携の必要性については、先行文献でも触れられている。しかしながら、統計分析に基づいて実証的に検討し報告する先行文献は見られない。本論文では、2職種の専門スキルの強みの差異や、2職種間の連携と退院支援実践力の関連について、統計分析によって明らかにした。これらは、本論文の中でも特に独創性と新規性のある知見と評価できる。

- 3.4.2 本論文は、急性期医療機関の MSW と退院支援看護師の 2 職種間の連携が、患者・家族、および医療機関の経営に対して、より良い効果をもたらすことに着目している点でも新規性があると評価できる。
- 3.5 本論文の学術的意義・社会的意義：本論文は以下の点において学術的・社会的意義がある。
- 3.5.1 本論文は、先行研究では見られなかった統計的手法を用いた分析によって、急性期医療機関の MSW と退院支援看護師間の連携の強化が、退院支援実践力の向上に有用と報告しており、学術的意義があると言える。
- 3.5.2 本論文は、医療現場の感覚を強く反映している研究である。本論文の知見は、急性期医療機関の MSW と退院支援看護師間の連携や役割分担のあり方に加えて、退院支援の質の向上を検討する際に有益な資料の一つになると考えられることから、社会的意義があると言える。
- 3.6 本論文の人間科学に対する貢献：本論文は、以下の点において、人間科学に対する貢献がある。
- 3.6.1 本論文では、急性期医療機関の MSW と退院支援看護師間で専門スキルの強みに差異があり、それぞれの強みを生かした 2 職種間の連携の強化が、退院支援実践力の向上に有用であることを検証した。本論文は、QOL の向上や Well-being の実現を目指す人間科学に貢献するものであると考えられる。
- 3.7 不適切な引用の有無について：本論文について類似度を確認したうえで精査したところ、不適切な引用はないと判断した。
- 4 学位論文申請要件を満たす業績（予備審査で認められた業績）および本論文の内容（一部を含む）が掲載された主な学術論文・業績は、以下のとおりである。
- ・ 影山康博， 加瀬裕子（2022）「医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師間の連携の構成因子に関する一考察」『人間科学研究』35(1)，109-117.
 - ・ 影山康博（2022）「医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師の退院支援実践力の構成因子と職種間の差異；2 職種における専門スキルの強み」『日本在宅ケア学会誌』25(2)，155-164.（令和 4 年度日本在宅ケア学会優秀論文賞）
 - ・ 影山康博（2023）「医療ソーシャルワーカーと退院支援看護師における 2 職種間の連携が退院支援実践力に与える影響」『日本看護福祉学会誌』28(2)，1-11.
- 5 結論
- 以上に鑑みて、申請者は、博士（人間科学）の学位を授与するに十分値するものと認める。

以上